

令和6年5月 定例市長・市政記者懇談会の結果について

日時 令和6年4月26日（金）午前11時00分～11時45分
場所 市役所2階 第1委員会室
出席 市政記者クラブ6社 7名

会見内容

1. 話題提供（4項目）

1 観光消費による釧路市への経済波及効果について

- ひとつ目の話題は、観光消費による釧路市への経済波及効果についてです。概要版の資料を配付させていただいておりますので、ご覧ください。
- 観光施策につきましては、釧路市観光振興ビジョンに基づき進めています。2016（平成28）年度に策定いたしました第二期ビジョンでは、経済波及効果を基準年次の2倍、約500億円を目標に掲げており、これまで目標達成に向けて、様々な施策を展開してきました。
- しかしながら、新型コロナウイルス感染症の影響により、厳しい環境になったところであり、その中で、方向性の検証などが必要になってきたことから、昨年度、第二期観光振興ビジョンの中間見直しを行うとともに、目標としている経済波及効果の現状分析を行ったところであります。
- 概要版の資料の2ページ目をご覧ください。前回調査と比較して1人当たりの消費額が日本人、外国人いずれも増加しました。特に外国人は、2倍以上となっているところです。
- 3ページ目の釧路市を訪れる来訪者が市内で消費した金額は、年間で440億円となり、観光消費が釧路市にもたらす生産波及効果は470億円。そして、雇用誘発効果は3,908人、付加価値効果は227億円と推計されたところであります。この中で、前回調査時（2017（平成29）年度）の422億円から48億円増加し470億円となりました。目標値の500億円にも近づきつつあるものと受け止めております。
- あわせて、産業別経済波及効果では、観光は宿泊業や飲食店など波及効果が狭いと思われがちですが、基幹産業である漁業など幅広い産業に波及しています。観光をベースに様々なところに活性化やプラス効果がありました。
- 4ページ目は、「食」の魅力向上や体験型観光の推進により、宿泊客数や消費単価の向上を図ることで得られる効果を示しています。
- 私どもの観光ビジョンは、まさに観光を様々な産業で取り組み盛り上げていくことで、地域の活性化に結び付けていこうというものであります。

2 「健康くしろ21 第3次計画」について

- 2点目が「健康くしろ21 第3次計画」についてです。
- この計画は、市民の生活の質を向上させ、健康なコミュニティを築くための総合的な指針ということで、基本理念が「全ての市民が健やかでこころ豊かに生活できる持続可能な地域の実現」となっています。また、計画期間は令和6年度から令和17年度までとなっています。
- この計画策定にあたっては、「釧路市民健康意識調査」といった形で、市民の健康課題について様々な調査を行い、分析しました。その結果、全ての世代において、健康を維持するために重要な食生活や運動、睡眠などに課題があり、こうした生活習慣と深い関わりのある肥満や糖尿病、高血圧など生活習慣病を背景とした腎不全で亡くなる方の割合が高いという課題が明らかとなりました。

- 第3次計画のポイントとしましては、こういったことを踏まえて、第2次計画の基本理念である「健康寿命の延伸」にプラスして「誰もが健康づくりに取り組める地域づくり」や全世代を通じた生活習慣病の発症及び重症化を防ぐ取組みに重点をおくこととしました。
- 具体例としては、次世代の生活習慣病対策として、これまで希望者を対象に行っていたキッズ健診を拡充し、市内3校の5年生全員を対象に、保健師による健康教育やプレキッズ健診、保護者も含めての栄養教育を行います。釧路市の小学校5年生は今日の新聞で体力が高いと発表になったところですが、生活習慣病対策の取組みをどのように進めていくかということになります。
- また、生産年齢世代では、職場全体で業種や働き方に応じた健康づくりに取り組むため、健康経営優良法人認定に向けた情報発信や、健康啓発につながる活動の充実を図っていきます。
- このように健康をキーワードとして、計画に基づき取組を進めていきます。

3 阿寒アイヌクラフトセンターについて

- 続いて3点目が阿寒湖の阿寒アイヌクラフトセンターについてです。
- 令和4年度から整備を進めてきたものであり、この阿寒アイヌクラフトセンターでアイヌ工芸等の担い手を育成する研修事業を5月から開始します。
- 開設にあたりましては、アイヌ文化への造詣が深い札幌大学の本田優子教授をはじめとして、地元のアイヌ団体・関係団体で構成する阿寒アイヌクラフトセンター検討委員会の意見を踏まえ、アイヌ工芸技術により関心をもってもらえるように、見学者への対応としてオープンファクトリーを導入し、研修室を一部ガラス張りにして研修の様子を常に見学者から見えるように、ということにポイントを置いています。
- また、施設の外観にアイヌ文様の装飾を施しました。内装も木材を用いて落ち着いた雰囲気であり、随所にアイヌ文様を施しています。
- この阿寒アイヌクラフトセンターの一つの大きな目的である担い手育成研修事業について、今回公募を行ったところ、4の方が研修を受けることになりました。アイヌ工芸やアイヌ文化全般、起業に向けた経営・デザイン講座を2年間受けることから、非常に期待をしています。
- 5月9日（木曜日）11時から地元のアイヌ団体や関係者の方を招いたオープニングセレモニーを開催します。翌日の5月10日（金曜日）から担い手育成研修事業をスタートします。
- オープニングセレモニーに先立ちまして、4月29日（月曜日・祝日）の阿寒湖の湖水開き終了後、13時30分から報道機関の方を対象に見学会を行いますので、ぜひ見てもらえたらと思っています。
- この阿寒アイヌクラフトセンターでの事業については、北海道白老町のウポポイのように施設を活用しながら進めていきます。阿寒湖で情報発信を行っていきながら、併せて、阿寒湖の中で培われてきた技術のうち、特に大きなものを制作する技術が阿寒湖にしか残されていないという実態を踏まえて、大切にして取り組んでいきたいと考えています。

4 阿寒湖の春のイベントなどについて

- 続きまして、阿寒湖の春のイベントについてのお知らせです。
- まず、1つは「阿寒 湖水開き2024」が4月29日（月曜日・祝日）に開催されます。
- 例年同様、阿寒湖義務教育学校の生徒たちによるブラスバンド演奏や先着100名様に遊覧船の無料乗船券の配布のほか、スタートの前に、11時50分から安全祈願祭（カムイノミ）を行い、テープカットが行われたのち、13時より遊覧船が出航します。

- 2つ目は、イコロの新演目「満月のリムセ」の公演開始についてです。
- 4月27日（土曜日）から10月31日（木曜日）までの期間で公演されます。
- この演目は、アイヌ文化への認知度及び関心度を高めるということで、令和3年度から3か年に渡り、制作を進めてきたところであり、今年（令和6年）の1月に完成しました。
- 「育て合う大地」という意味の「ウレシパモシリ」という言葉をテーマにしており、是非、見ていただければと思っております。
- 演目で使用する衣装や小物は、阿寒湖アイヌコタンの方々により製作されており、映像で使用される効果音も実際に阿寒湖で聞こえる音が収録され、徹底的にこだわったものでございます。
- また、ナレーションを担当されているのが、俳優の宇梶剛士（うかじ たかし）氏であり、その他様々な分野の専門家を招へいして、非常にクオリティの高い演目となっておりますので、是非、みなさまも楽しみにしていただければありがたいと思います。

2. 質疑要旨

（質問）

- ・阿寒アイヌクラフトセンターについて、今回4人の方が2年間受講されるとのことですが、毎年4人の方を受け入れてどんどん増やしていくのか、それとも2年間はこの4人だけで行っていくのか。

（市長）

- ・学校のように毎年受け入れるのではなく、2年間はこの4名で行っていきます。

（質問）

- ・先ほどの市長の説明で、ウポポイは情報発信とのことでしたが、阿寒湖にも情報発信の拠点を作っていきながら、一方で育成の役割が大きい施設になるのですか。

（市長）

- ・そのように思っています。ウポポイはしっかりと展示を行っていきながら、多くの方に触れていただくというものです。そういった中で、伝統的で古典的な形で進めていくものと思っています。

阿寒湖のアイヌ文化は特徴的であり、これまでの取組を見ていきますと、北海道の他地域のアイヌの方々とは違う発展的なことに取り組んできた歴史があります。阿寒湖畔にはその中のひとつとして情報発信があると思っています。あわせて強みとして、地域の中でアイヌ文化の技術を育ててきたことでもあります。アイヌの木彫では、大きなものを作ると日数がかかりますことから、経営を考えると小さいものを作り回転させていくマインドになるものですが、阿寒湖畔はホテルを含めた地域の中で、カムイニなど大きな木彫の発注を地域全体の中で行って購入してきています。北海道の中でイランカラプテキャンペーンを行った際に活用された藤戸さんと滝口さんはともに阿寒湖の方でした。その後継の方たちがまだいらっしゃいますので、しっかりと技術を地域の中で守り育てながら、あわせてクラフトセンターで研修される方々に引き継いでいくという目的を持って行っています。

（質問）

- ・経済波及効果のシミュレーションを行っていますけれども、食材の域内調達率について、自治体として促す仕組みや仕掛けとしてどのようなことを考えていますか。

（市長）

- ・域内調達率については、長い取り組みになります。地産地消という言葉から始まり、産消協働になり、今は域内連関とバージョンアップさせた形の中で取組を進めています。域内循環については、市として様々な運動の中で掲げながら進めています。北海道も「産消協働道民宣言」を平成17年から取り組んでいます。しかしながら、長引く厳しい環境の中

で、安いものを求めることから、域内調達率が下がっています。

地域の中では、既存の流通ルートで行っていきながら、別の流通ルートを確保し収益率を高める取組を行っていただいています。

私どもは、「地域のをしっかり使っていきましょう」「域内循環を進めていきましょう」

「域内調達率を高めていきましょう」という取組とその成果を示しながら、域内調達率に結び付けていければと思っています。各種総会などで提示していただいております。意識は上がってきていると思いますので、引き続き高めていくために取組を進めていきます。

(質問)

- ・観光振興ビジョンは令和8年度が目標年度となっていますが、目標が500億円で今回470億円という数値が出ました。残り30億円ということで、目標は達成できそうですか。

(市長)

- ・そのように思っています。

(質問)

- ・上積みに向けて、何か力を入れたいことはありますか。

(市長)

- ・観光については、入込数がベースとなっております。しかし、産業である以上はその数ではなく、実際の問題として経済波及効果や売上がベースになると考えています。そういった中で、経済波及効果は北海道全体の中でも、5～6年に1度発表されることが常でしたけれども、我々は産業として経済波及効果に注目しています。我々のキャパシティや地域特性を踏まえていったときに、より高付加価値が求められており、それらを提供していきながら満足度を高めていこうと取り組んでいるところです。それが他の産業にも波及することで、例えば水産業において既存の流通以外のところに出していくなど、観光政策として高付加価値を意識して提供していこうという形で進めていきたいと思っています。釧路市で何百万人などあり得ませんし、たくさん来ても収益が逆にいくこともあります。これからはアドベンチャートラベルなどのお客様が求めるものを私たちの地域でしっかり提供することが必要ですので、このような観点で進めていきます。

(質問)

- ・今問題となっている長谷川参議院議員について、釧路市では調査を行っていますか。行っていればその結果を教えてください。

(市長)

- ・私は、調査は全く必要ないと思っています。我々の懸案事項は地元の先生方にしっかりお話をさせていただいています。北海道選出の先生方のところも回っていますが、ストレートに私に電話をいただいております。その中で特に問題はありませなし、様々な情報をいただいている関係です。

(質問)

- ・職員の方たちに対しては、聞き取りは行いましたか。

(市長)

- ・聞き取った結果はやはり何もないです。ストレートに私のところに連絡が来ておりますので、役所のそれぞれの部署に連絡がいくことはないと思っています。

(質問)

- ・他の自治体では、「威圧的な言動があったか」や「個別の呼び出しによる面会により多額の公費が使われたか」という調査であるが、釧路市の場合、市長は必要がないという考えですか。

(市長)

- ・地元国会議員が3名いらっしゃいます。政治の仕組みとして、この3名の先生にお願い

をしながら対応を進めているところであります。全体の要望で東京に行ったときには、長谷川先生や岩本先生、橋本先生などの事務所に私が伺っておりますので、そのようなことにはなっておりません。

(質問)

- ・札幌市や帯広市など色々なところでこのようなことになっていますが、道選出議員ということからどのように受け止めていらっしゃいますか。

(市長)

- ・様々な話は伺っております。実際に物事を進めていくには色々なケースがあります。人対人でありますので、相手がどう思うのかが大事だと思います。釧路市ではそのようなことはありませんし、あらゆる場面で力を発揮してくれていた方ですので、何とか事態が収まってほしいという思いです。

(質問)

- ・人口戦略会議において消滅可能性自治体が発表になりました。釧路管内ほとんどの自治体が入っており、また釧路市が入っていることの受け止めと今後どのようにしていくのか市長の考えをお聞かせください。

(市長)

- ・この調査は、一定程度危機感を煽りながら、しっかり取り組んでいこうという目的だと思います。私は道議会議員の時、1回目の社人研（国立社会保障・人口問題研究所）の報告書を見ております。その後、増田レポートとして様々示されるようになりました。今回も人口減少のネックは少子化であると思っています。これに対しどのように進めていくのかがポイントになってくると思っています。自治体はどう進めていくのかや国が一極集中をどのように進めていくのかということです。「まち・ひと・しごと創生総合戦略」の時にも話しておりますが、国の対策は移民政策を取らない限りは子どもを増やす少子化対策だけです。しかし、地方の場合は自然減と社会減の2つの要素があり、大学進学や就職で都会に出ていく構図があります。「志をはたしていつの日にか帰らんふるさと」ですから、地方から中央に行きいつの日か故郷に帰りたいという流れで150年以上ずっと来ていますので、その中でどのように進めていくのかということです。社会減はまだマイナスが続いていますが、昔と比べて半分くらいの水準であり、長期のものではありますがこの短期の見方も正しいと思いますので、社会減の構造に対応していき、あわせて国の政策を見ていながら進めていきたいと考えています。

(質問)

- ・社会減の構造を直していくというところで、経済など様々な面が必要と思いますが、具体的にこの面を進めていくというところはありますか。

(市長)

- ・色々な産業で付加価値を高めていくことです。我々の地域は昔恵まれていました。石炭、水産、紙パルプの3つの基幹産業がありました。大量にとれているが故に北海道の中で付加価値率が低い状況です。それは原料のままや1次加工の状態で流通ルートに乗っているということです。昔のように大量にとれているときはいいですが、現在の状況ですと付加価値を高めていながら収入を増やすことが必要です。あわせて新しい産業として1次産業を基盤にしていくものや自然環境のものが出てくるとは思いますが、様々進めているところです。先ほども言いましたように地域の中で志を果たせるような可能性を高めていくことが最大の人口減対策になると思っています。

(質問)

- ・いじめの重大事態の件について、受け止めと、今後教育委員会が中心になっていくと思

ますが、どのような流れで解決していきたいと考えていますか。

(市長)

- ・この件につきましては、スタート時点から教育委員会より報告があがってきていました。その中で私も色々な情報を聞いていたところです。釧路市で初めての重大事態であり、生徒が転校するまでになったということでこの位置づけになっています。この存在と結果を含め大変残念であると思っています。

今、第三者委員会が調査を実施されているところであり、今までの教育委員会の調査記録も第三者委員会に提出しているところですので、その結果をしっかりと受け止めて、適切な対応を取っていきます。初めから、オープンにしていきながら行っていくことになると教育委員会には話をしていきますので、適切に対応してくれるものと思っています。

(質問)

- ・第三者委員会の報告は公表されるとのことですが、他自治体の例では全部黒塗りでの公表でした。釧路の場合は、全部黒塗りではない状態で公表されますか。

(市長)

- ・個人名は黒塗りされますが、ほとんどは公表されると思っています。「いじめはなくしましょう」と一生懸命取り組んでいます。あわせて受け止め側といじめた側で違いがあると思えますけれども、そこまで考えが及ぶようにすることが重要なことです。その言葉が定型的にいじめということではなく、受け止め側の気持ちが一番重要です。そういった内容がわかるものを表に出していくことが、いじめの防止や相手の気持ちの理解につながってくるものと思っています。

(質問)

- ・第三者委員会の報告がまとまるのはいつごろか聞いていますか。

(総括指導主事)

- ・今年度内を目標に進めています。具体的にいつかを示すのは難しい状況です。

(質問)

- ・市長が最初に事態を把握したのはいつですか。

(市長)

- ・昨年、令和5年の春です。

(質問)

- ・事態が発生してから、積極的に市長に情報が入る体制になっていましたか。

(市長)

- ・はじめに情報が入ってから、ポイントごとに報告を受けていました。

(質問)

- ・報告に時間がかかりすぎているという状況はなかったですか。

(市長)

- ・今までの中では、丁寧に対応してきていると感じており、学校側の対応も聞いていました。生徒のことを考えながら進められていると思っています。

(質問)

- ・学校のエアコン、送風機設置の進捗状況を教えていただきたい。

(市長)

- ・令和5年度にすべての小中義務教育学校の保健室へのエアコン整備と普通教室や職員室の送風機の設置を行っています。令和6年度は内陸部である阿寒の3校の普通教室にモデル事業として窓用エアコンを設置します。あわせて北陽高校の普通教室及び保健室に窓用エアコンを設置します。これらも6月末までに設置が完了します。

(質問)

- ・窓用エアコンはどういうものですか。

(施設計画主幹)

- ・窓に直接設置するタイプで、クーラーと同じ原理により、冷たい風が出てくるものです。

(質問)

- ・資材不足などの影響はありませんでしたか。

(市長)

- ・全部確保できています。昨年もし早く確保するために議会にも説明して進めてきました。

(質問)

- ・アイスホッケーについて、アジアリーグの参戦を目標に、市と連盟と経済界で新組織の立ち上げを検討していると思いますが、進捗状況を教えてください。

(市長)

- ・来年のアジアリーグ参戦の目標を持ちながら進めていこうと相談をし、釧路市とアイスホッケー連盟と商工会議所でスタートしたところですが、次の段階に向かうところは具体的に進んでいないところです。いち早く行動を示すために情報を出しながら急ぎたいところではあります。

(スポーツ課長)

- ・アイスホッケー連盟が先頭に立って進めていくことで話が決まり、ゴールデンウィーク明けに市と商工会議所がサポートする形で動き出すことを考えています。